

マスクの正しい着用について

- 職員のマスク、適切な着用ができていないか再確認しましょう
 <着け方、外し方の例>



(引用：サラヤ株式会社公式サイト <https://shop.saraya.com/hygiene/check/influenza.html>)

<ポイント>

- ・「鼻」「ほほ」「あご」にすき間ができないように、しっかりフィットさせる。鼻とほほの間は、最もすき間ができやすい部位です。
- ・マスクを『つける前』に、鼻の形に合わせて山折り・谷折りすることで、すき間をなくすることができる。
- ・あごを覆うことも大切。ただし、あごを覆うためにマスクを広げすぎると、ほほにすき間ができやすくなるので注意が必要。
- ・自分の顔の大きさに合わない、大きすぎるマスクはすき間ができやすくなるので、自分に合ったサイズのマスクを選ぶことも大切。

(参考：NHK 公式サイト https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1167.html)

<マスク着用の考え方>

感染予防のためには、マスクやその他の防護具の使用方を正しく理解する必要があります。特に以下の点に気を付けることが大切です。

- ・会話をするときはマスクをする
- ・鼻をマスクから出さないようにする。
- ・マスクを顎にずらしたままにしない。
- ・マスクの全面を触ることを避ける。もし触れた時は手指衛生を行う。
- ・処置や介護を行う等感染のリスクが高まる状況では、フェイスシールドやゴーグルを併用し、眼の粘膜を介した感染を防ぐ。
- ・フェイスシールド、マウスシールドはマスクを使用した上で装着する。

子どもにかかわる業務の現場では、マスクを着用していない子どもに対応するとき、フェイスシールドやゴーグルを装着することが難しい場合もあります。また、マスクなどの着用で、表情が見えにくくなることによる弊害も懸念されます。子どもを支える保育・教育と感染対策の両立は大変困難ですが、それぞれの現場で工夫しながら子どもの感染予防に務めてください。

(参考：日本小児科学会「子どもおよび子どもにかかわる業務従事者のマスク着用の考え方」)